

国際航業における衛星リモート センシング活用事例のご紹介

－ 社会実装への視点を交えて －



1. 会社紹介





国際航業の概要

日本アジアグループ

空間情報コンサルティング事業



国際航業株式会社

グリーンエネルギー事業



JAG国際エナジー株式会社

設立
資本金
売上高
従業員数

1947年（創立70周年）
167億29百万円
379億円（2017年3月末）
1,880名（2017年3月末）

国内拠点

47都道府県をカバーする営業網と
5事業拠点



海外展開

アジア、ヨーロッパを中心に拠点展開。
ODA等を通じ全世界で事業を展開。



● 事業拠点
● 事業展開地域



国際航業の事業領域



安心で安全、そして持続可能なまちづくりで社会に貢献

**Save the Earth,
Make Communities Green**



国際アジェンダとのかかわり

2015年は連携した3つの国際アジェンダが採択された

仙台防災枠組2015-2030

持続可能な開発目標(SDGs)

国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)「パリ協定」

国際航業と国際アジェンダのかかわり

国連国際防災戦略事務局(UNISDR)

民間セクターとして仙台枠組策定過程において提言

UNISDR災害に強い社会に向けた

民間セクター・アライアンス(ARISE)参画

国連グローバルコンパクト

ケアリング・フォー・クライメイト(C4C)イニシアチブ賛同

国連気候変動枠組条約

COP参加、発表等活動

世界経済フォーラム

Alliance of Climate CEO Leaders参画

持続的開発目標



仙台防災枠組
(2015-2030)



パリ協定COP21
(2020以降)



国際航業のワンストップサービス

目的に応じた
多彩な計測センサ

センサ高度

人工衛星画像

600 ~ 700km



- 広範囲の情報を効率的に取得
- 大規模災害の調査、森林のCO₂吸収源計測等へ活用

航空写真

600 ~ 3,000m



- 高解像度の写真撮影
- 行政の地図作成、固定資産調査、災害調査等へ活用

航空レーザ計測

300 ~ 1,500m



- 地表面の高さ計測
- 地形図作成、3次元モデル作成等へ活用

地上計測

0m



- 車載センサを用いた移動体計測
- 道路施設維持管理、台帳管理へ活用

水中計測

0 ~ 200m



- 船舶からのレーザ計測
- 港湾施設管理、津波シミュレーション等へ活用

計測から利活用まで
ワンストップサービス

計測

解析・処理

利活用





多彩なセンシングシステムを保有

衛星のみならず、航空機や MMS (Mobile Measurement System) 車両など、高精度のデータ取得を可能にする各種センサ類を保有

航空機
UAV



航空機



UAV

航空カメラ
航空レーザセンサ



航空カメラ



航空レーザセンサ

MMS 車両
移動体計測車両 (Roadman)



MMS 車両



移動体計測車両 (Roadman :
ロードマン)